

常盤塾議事録

日時：2017年9月9日（土）10：00～13：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也、秋元裕太

メンバー：常盤先生、片平先生、出井さん、松永さん、古城さん、大下さん、丸山さん、古川さん、安梅さん、松崎さん、今田さん、昌子さん

アジェンダ

1. 一分間スピーチ
2. 常盤先生のお話し
3. 松永さんの発表（※ディスカッションはなく発表のみだったため、議事録はありません）

(1) 一分間スピーチ

・古城さん

マツダエンジンに関して。（資料を用いながら）

・古川さん

ギブソンによるアフォーダンス理論。環境は全ての情報を我々に提供している(環境は常に変化)。人間は、環境の中から行動に必要な情報をピックアップしている。同じ情報から人によって違う意味を受け取るのはそのため。神様がアフォードするものをプロバイドという。現場を見る時も、複数の仲間で見ることが大事。

・今田さん

ニュージーランドは、平和な場所。競争がない＝歴史から違う。「競い合う」という文化がない。イングランドから来た人たちが最初から助け合って生きている。戦争を知らない（過去一回だけ）資本主義より幸せ？例えば、大きい家（=成功者）もいないが貧困もない。重工業もない。

・丸山さん

白川静と岡潔について。文化と理科の根底に東洋的な考えがある。それは、自然を内に見るという考え。

・片平先生

資料発表。「楢円の哲学」例えば、日本文化も西と東の二種類があるから発展した。

・松崎さん

Amazonについて。「伝える」と「伝わる」こと。Amazonは、地球でいちばん「顧客を大切にする」理念を掲げる。アルゴリズムを重視、人に気づかれない快適さを提供する。一対一でサービスをしっかりとすることではなく、一定のプログラムで多数の人に快適さを提供する。それが強み。

・昌子さん

6月末にリタイア、顧問へ。義理の母が脳梗塞で倒れる。

以前より時間がある。おしゃれなカフェに入ったが、出て来たコーヒーがお湯のようなものだったことに驚愕。それと比べたら、マクドの百円コーヒーは美味しい！人を大切にしないとビジネスは成功しない。

・松永さん

準最適化（資料発表）生物は、全体でなく局所で最適化を行う。

・大下さん

楢円のプレートをもらう。NHKの番組、火山とそこの土地の美味しいものを紹介（=火山は怖いけどもたらすものも多い）

・出井さん

7月、朝吐き気があった。血圧が低い、貧血。「人の健康に携わる人は健康であるべき」=健康経営

・安梅さん

ウクライナについて。西と東が敵対。ヨーロッパ系とロシア系。坂本龍馬のような、まとめる人が必要。常盤先生のモデルも、そういう問題の解決といった実例があるとさらに説得力が強くなる。

(2) 常盤先生のお話し

血糖値の測る。もっと簡単にできるようにしたらビジネスになるのではという提案。「できない」という発言を上の人が言うとダメ。夢は語っているとできるようになる。科学者自身が科学の限界を作ってしまう。マツダのエンジンもそう。

人工知能がブーム。過去に3回あった。

①ハーバート・サイモンが人工知能の未来を描く

②チェス、将棋、囲碁が人工知能に負ける。

③今

AIは、テーマ・仕組みがはっきりしている領域。それをあたかも世の中が変わるように言われている。人工知能は汎用ではまだまだ。「情報化」により、確かに世の中は変わったが、徐々に進歩し統合化されている。ある個人ができることはない。人工知能も同様に、そこまで騒ぐことではなく、各人がその場その場で対応していくことが大事。

企業とは？文化や風土が大切？企業（集団）の価値とは何か？

そういう面から人工知能に向き合うべき。お金だけで考えるのではなく、企業の文化から考える。

企業の衰える一番の原因は、文化の衰退。

ex.ダイエー、ソニー、東芝など

企業は一つの生き物。価値観・個性・能力(=色々な器官)が、有機的に繋が

る。

企業が一人の巨人であるかどうか。そういう仕組みのために「文化」がある企業を語る＝企業を形成する人を語ること。企業情報（コーポレートガバナンスなど）を作成・評価するのに莫大なコストがかかっているが、それが機能していないのは非常にもったいない。人から見た議論はあまりない。

人は「神工知能」

京大の佐伯啓思氏「加速するAI技術」そこには人間とは何かという問いが求められている。人工知能が人から離れてはいけない。考えていく中で部分解を見つけていく

養老孟司氏「医者で従来とは違う現象」

＝双方人間である患者と医者の距離が離れている。

＝データなどに頼り、患者の顔を見ていない

触診。データは背景があって出てくる。人間に関するデータは、ノイズの塊。環境や体調によって変わる。人を情報の塊として捉えようとしている(＝人の情報化) 養老氏がイギリスへ訪れた際、飛行機降りたら胸が痛い。空港内の病院へ。色々な要因から、時間が経てば治ると感じていたがデータ上は危険な状態。治療はいらなと言った。しかし医者は怪訝な顔。治療を断るにはサインがいる。

世の中は人を情報化している。企業も同様。企業も、本来は定量的にはかれないもの。定性的な測定が業績評価にないことが問題。

NHK『日曜美術館』西洋から日本に美術を持ち込んだ時代の話。西洋では写実を重視する。日本独自の写実があるはず日本の写実を追い求めた人がいる。岸田劉生など。ものの「形」を決めるのではなく、ものの「存在」を決めなければ。写実を追求していくと、真実に突き当たる。それこそが日本の求める写実。ものの現実を捉えようとするところには写実の本質はない。写実から離れなければ写実の本質はない。唯物論・唯神論 ↔ 唯心論

写実とは抽象と重なるのでは。そこに日本画の進歩があった。

認知科学や認知を追っていくだけでは人間を理解できない。「知ること」の奥に本当の真実がある。そういう軸を持って人工知能と対面していくべき。

人間の中にある意識は何か。「唯識」＝五識の知覚を総合的に判断する六識
その奥にもう二つ。末那識と阿頼耶識＝無意識がある。



八識説の概念図の一例

八識説の概念図の一例

『唯識に生きる』講座をやっている。現在の物理学と重なるところがある。

人の無意識が人を動かしている。(＝無意識との対話)

人工知能は人の仕組みには勝てない。人工という言葉がある限り、人間という概念が対岸にある。昔の人が考えた人間のあり方、価値観を一緒に勉強していくことが大事。

ex.鈴木大拙のお茶の達人、弓を使わない名人の話

岡潔。今後は前頭葉だけでなく側頭葉を使う。

子供には祖父、祖母が大事 (今右衛門さん)